

合同教育研究会議（12月14日開催）議事概要

1 開催日時

令和4年12月14日 13時00分～14時40分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、
狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、
猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、
福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、亀田ソフトウェア情報学部長、
高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、
菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、
長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長）

[事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、
藤村研究・地域連携室長、北島企画室長、瀧澤宮古事務局長
西川総務財務課長、八木主幹、伊藤主任主査

4 会議の概要

議事録確認

前回会議11月9日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

なし

協議事項

(1) 令和5年度大学院修士課程進学予定者に係る「特に優れた業績による奨学金返還免除内定制度」への対応について

三上学生支援本部長及び高田学生支援室長から、資料に基づく説明及び次のとおり資料修正の説明があった。

[資料修正] 資料7ページ最下部

誤：ソフトウェア情報学部を中心に選考

正：ソフトウェア情報学研究科への入学予定者を中心に選考

誤：他学部学生も対象に含め選考

正：他研究科への入学予定者も対象に含め選考

対象者は令和5年度に修士課程等への進学を予定している者とされているが、専門職学位課程も含まれることから「修士課程『等』」となっていること、奨学金返還免除内定者の決定は6月下旬の予定である旨、補足説明があった。

日本学生支援機構から示される推薦枠のうち追加枠の趣旨について委員から質

問があり、高田学生支援室長から、趣旨については日本学生支援機構から示されていないが、追加枠は毎年度確実に配分されるものではないとされていることから、予算の状況が追加枠の配分に影響するものと思料されるとの回答があった。

対象者は令和5年度に修士課程等への進学を予定している者となっているが、制度は令和6年度以降も継続されるかとの委員からの質問に対し、高田学生支援室長から、日本学生支援機構からは令和5年度として通知があったが、今後も継続されるものと思料されるとの回答があった。

要件として、大学学部において修学支援新制度を利用していることとされているが、修学支援新制度を利用していた者が社会人となり、その後大学院に進学する場合には、当該制度の対象となるかとの委員からの質問に対し、高田学生支援室長から、制度の目的が優秀な低所得者の支援であることから、社会人入学は想定されていないと思われるが、改めて確認するとの回答があった。

要件にある分野のうち「②大学の強みや地域の強み等を生かした分野」について、本学ではどのような分野を想定しているかとの委員からの質問に対し、高田学生支援室長から、分野①に該当する研究科以外の研究科と考えており、ソフトウェア情報学研究科以外の研究科を想定しているとの回答があった。

本制度では、本学の学部から本学の大学院に進学する者と、他大学の学部から本学の大学院に進学する者を区分せずに選考するのかとの委員からの質問に対し、高田学生支援室長から、そのとおりであるとの回答があった。

本制度では、修士課程進学後の業績の審査は行わないのかという委員からの質問に対し、高田学生支援室長から、修士課程進学から1年後に日本学生支援機構に対して本制度内定者の成績を報告することとなっているとの回答があった。これに対し、委員から、制度の周知をする際にはそのことも併せて周知してほしいとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

(2) 特定課題対応準備室の設置について

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

学長から、当該準備室は学長補佐室のようなものを想定していること、社会からの要請に対応するために学内横断的な組織の設置や取組が増えてくることが想定されるが、そのような取組を進めるための準備に柔軟かつ臨機応変に対応するために準備室を設置するものであるとの補足説明があった。

委員から、学長のリーダーシップにより課題解決を進めていくことで本学が活性化することを期待するとの発言があった。

委員から、製品評価技術基盤機構は経済産業分野の政府機関として、技術の評価や基準認証、標準化などに関する機能を持っていること、本学の活動成果を地域に実装化していくことが本学の使命のひとつであるが、さらに地域の雇用につなげていくことについて、機構として支援したいと考えているとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

報告事項（口頭報告）

(1) 令和4年度学位記授与式等及び令和5年度入学式の開催方法について

猪股教育支援本部長及び関屋教育支援室長から、資料に基づき説明があった。

(2) 令和4年度夢灯り withUの開催について

三上学生支援本部長から、例年実施している講堂での学内サークルステージ発表や模擬店を行わず、Illumination Project withUの取組であるイルミネーション点灯式の中でストリートダンスサークルとア・カペラサークルの発表を行う予定である旨、資料報告(5)の資料(資料No.13)に基づき説明があった。

(3) 令和4年度岩手県立大学の就職内定状況(11月末現在)について

三上学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。看護学部は内定未報告の学生が多く、実際の内定者は昨年度と同程度であること、社会福祉学部は公務員の内定者が昨年度よりも若干減少しているほか、福祉の専門職の希望者が昨年度よりも多く、その学生がまだ内定を得ていない状況であること、また、内定未報告の学生も多いこと、宮古短期大学部は内定未報告が多かったが、報告するよう指導した結果、12月上旬時点での内定率は76%となった旨、補足説明があった。

高橋社会福祉学部長から、社会福祉学部の内定状況について、内定率は福祉の専門職の希望者数に左右されること、平成27年度以降昨年度までは一般職の希望者が多かったため11月現在の内定率が高かったが、平成26年度まで内定率50%前後で推移しているのは11月以降に専門職の採用活動が本格化するからであり、専門職の希望者が多い今年度における現状70%弱という数値は例年どおりであると捉えているとの発言があった。

(4) 令和4年度計画に係る業務の実績の報告について

橋本大学評価委員会副委員長から、資料に基づき説明があった。

作業スケジュールについて、12月23日から1月9日まで休暇取得促進週間であり、実質的な作業日数が限られているため、部局個別実績の提出期限を年明けにできないかとの委員からの意見に対し、橋本大学評価委員会副委員長から、個別に相談してほしいとの回答があった。

(5) 令和5年度に係る計画の作成について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

公立大学法人の年度計画・評価の制度が廃止される方向であるが、廃止後の対応について現時点ではどのように考えているかとの委員からの質問に対し、橋本企画本部長から、年度計画・評価の廃止については施行日が示されていないため、現状では令和5年度計画の作成は例年どおり作業を進める予定であること、また、廃止された後であっても、中期計画の取組を前に進めていくためには毎年度自己点検・評価を行い、進捗管理と不断の見直しをしていく必要があること、ただし実績のまとめ方や作業の進め方は簡略化し、実質的で簡潔なものとしていきたいと考えている旨、回答があった。これに対し、委員から、形式的な作業を簡素化して、中期計画の進捗管理として実質的なものとなるよう進めてほしいとの発言があった。

学長から、年度評価を行う必要がなくなったとしても、期間評価において達成度評価を行うことを踏まえて毎年度取組を進めなければならないとの発言があった。

(6) タグライン(キャッチコピー)策定に係る学内向け情報共有の工夫について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。広報戦略を策定してからタグラインを策定するのが本来の順番であるが、タグラインの策定を広報戦略策定に先駆けて行うのは、第四期中期目標期間にタグラインを入れた大学ロゴマークを広く活用していくためであること、このため、タグラインと広報戦略に齟齬が出な

いように進めていく旨、補足説明があった。

(7) 第6次岩手県立大学情報システム整備計画の検討状況について（中間報告）

橋本情報システム整備計画策定委員会副委員長から、資料に基づき説明があった。

学長から、日本はデジタル化は進められてもDXを進めるのが難しいこと、経験ではなくエビデンスやデータに基づき議論をして施策を決定していく文化を広めていくため、本学で取組を進めていくことを考えており、これは情報システム整備計画とも関連するものであるとの発言があった。

報告事項（資料報告）

- (1) 2022年度 岩手県立大学海外研修の実施について（スペイン語・スペイン文化コース）
- (2) 令和4年度「全国学生調査（第3回試行実施）」への参加について
- (3) 学校推薦型・帰国生徒・社会人選抜結果について
- (4) 令和4年度地域懇談会の開催結果について
- (5) 令和4年度 Illumination Project withU の取組みについて
- (6) 令和4年度公的研究費の不正防止対策の実施状況について
- (7) 令和5年度地域協働研究の公募について
- (8) きたかみ・かねがさきテクノメッセ出展結果について（報告）
- (9) CEATEC 2022 出展結果について（報告）
- (10) アグリビジネス創出フェア 2022 出展結果について（報告）
- (11) メディカルクリエーションふくしま 2022 出展結果について
- (12) 「令和4年度第7回職員衛生委員会」の結果について
- (13) 「令和4年度第8回職員衛生委員会」の結果について

- ・ 高田学生支援室長から、(5)について、イルミネーションの点灯時間が17時から20時までとなっているが、30分繰り上げて16時30分から19時30分までにできないか調整中であるとの補足説明があった。

その他

なし